

# がんセンターおより

COVID-19感染拡大による自粛制限に伴い、開催中止が続いておりました市民公開講座を3年ぶりに開催することができましたので、報告します。

## 第12回市民公開講座 「がんを知る」 体にやさしい重粒子線がん治療



### 第12回 市民公開講座について

2022年10月29日（土）神奈川公会堂において、第12回市民公開講座「がんを知る」を開催いたしました。今回は最新の治療法である、「重粒子線がん治療」をテーマとし、コロナ禍での開催にもかかわらず165名もの方々にご参加いただきました。当日は参加者からたくさんの質問をいただくなど、活気あふれる講座となりました。今後もこのような講座を開催し、がん治療に関する様々な情報を多くの県民の皆さんに提供できるよう努めてまいります。

### 保険適用拡大となった重粒子線治療 放射線治療科（重粒子線担当）部長 加藤 弘之

重粒子線治療は、従来の放射線治療に比べ、線量集中性と生物学的効果が優れており、より少ない副作用と高い治療効果が期待されています。臨床試験、先進医療を経て、現在、多くの疾患が公的保険の適用になっています。特に2022年4月には、肝臓がん、膵臓がん、子宮頸部腺がん、大腸がん術後骨盤内再発など、多くの疾患が保険適用拡大の対象となりました。ただ、日本国内でこの治療を受けられるのは、当施設を含めて7施設に限られること、一部疾患は未だ先進医療で行われていること、などにより治療が推奨される病態は限られたものになっています。手術による根治切除が困難な限局性がんであることが、重粒子線治療のよい適応と言えます。

### がんの集学的治療

副院長（消化器内科） 森本 学

「がんの集学的治療」は、手術や抗がん剤、放射線治療など単一治療に治療効果の全てを期待するのではなく、複数治療を組み合わせることで効果を上げたり、副作用や治療後の生活レベルを考えて低侵襲治療を選択したり、がんとの共生を図るために様々な支持療法も加える、といった考え方です。重粒子線治療は、既存の治療と同等以上の治療効果を最小の身体負担でご提供できる新しい治療法で、現在国内7ヶ所で受けられますが、がん専門の診療と一体化している点では神奈川県立がんセンターは唯一の施設です。当院では「がんの集学的治療」に重粒子線治療の選択肢を加えて、患者さん個々のニーズにお応えできる診療を目指しています。

## 学会報告

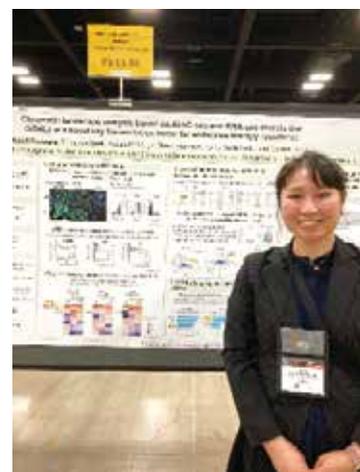
当センターでは、がん医療に向けた研究を推進しており、その活動の一環として職員が学会に参加しています。その一部を紹介します。

### サンアントニオ乳癌シンポジウム SABCS2022

2022年12月6日～10日 米国テキサス州サンアントニオ

乳腺内分泌外科医長 藤原 沙織

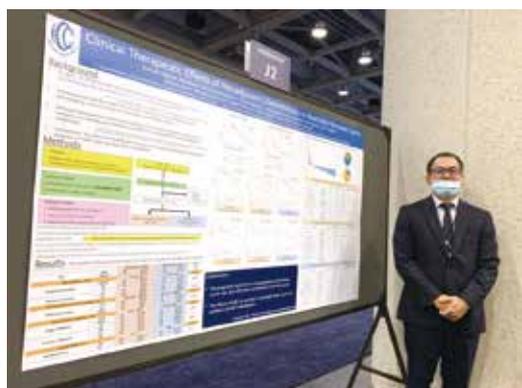
サンアントニオ乳癌シンポジウムは毎年12月初旬に開催され、90カ国から8000人以上が参加し、臨床研究結果からトランスレーショナルリサーチや基礎研究結果まで乳癌の最先端の科学的情報が発表・討議される国際会議です。今回私はこの会議にて、最新の知見を学ばせていただいたと同時に、ホルモン療法耐性乳癌細胞モデルのゲノムワイドシーケンス解析結果をポスター発表させていただきました。また当科の山中隆司医師は、脳転移を有するHER2陽性乳がんに対しトラスツズマブデルクステカンが有効であるという多施設共同研究ROSET-BM Studyの研究結果を、ポスターディスカッションにて発表しました。会場にて、普段お目にかかれないような国外の先生方とも直接討議し、自身の研究への助言だけでなく、他の先生方が今後注目している研究の方向性なども伺うことができ、大変有意義でした。今回の経験を活かし今後も日々研鑽を積んでいきたいと思っております。



### ASCO-GI

2023年1月20日～22日 米国カリフォルニア州サンフランシスコ

消化器外科（肝胆膵）医長 村川 正明



2023年1月20日から22日までアメリカ・サンフランシスコで開催されたASCO-GIに参加させていただきました。6年ぶりの参加で、以前とは異なりiPhoneがあれば何でもでき、どこへでも行けると、COVID pandemicで変わった部分を感じました。カリフォルニアは昨年末から嵐が続いていたようでしたが、参加期間中は幸運なことに晴天に恵まれましたし、XBB.1.5の影響もそれほどには感じませんでした。今回は膵臓癌治療における術前化

学療法の効果について発表させていただきました。世界各地から臨床試験の結果やon going試験についてなど、消化器癌に関する様々な研究成果が報告されており、多くの刺激を受けました。自分自身の研究のアイデアとなるような内容も多くありました。

会場では思いがけず大学の先輩にお会いしたり、自分が担当している患者さんとお会いしたりと今回も様々なご縁を感じる出来事がありました。Pandemic前後で学会の在り方には大きな変化がありますが、現場の空気を感じることはとても大事だと改めて思いました。

# 診 療 科 紹 介

## 消化器外科（肝胆膵）

消化器外科（肝胆膵） 部長 森永 聡一郎

肝胆膵領域の悪性度腫瘍の外科的治療を担当しています。当科は高度技能専門医修練施設（A）に認定されており質の高い手術を提供できる体制となっています。肝胆膵領域がんは難治性のため、内科、放射線治療科と一体となって集学的治療を行います。また新規治療の開発のために全国レベルの多施設共同研究に積極的に参加しています。近年の化学療法の進歩に伴い、当初切除不能であった膵癌から切除可能となる症例も増えており、コンバージョン



手術にも積極的に取り組んでいます。一方では肝細胞癌や低悪性度膵腫瘍に対する腹腔鏡下手術、機能温存手術も導入しており、術後の疼痛の軽減、入院期間の短縮が得られています。

### 退職の挨拶

#### ●病院長 金森 平和

皆さまには、長い間お世話になり感謝申し上げます。血液内科部長時代には多くの移植患者さんをご紹介いただきました。コロナ禍においても、がん診療の継続に多大なご支援をいただき、病院長として御礼を申し上げます。引き続き、貴施設と良好な医療連携を継続することを職員に託して、退職の挨拶とさせていただきます。

#### ●婦人科部長 加藤 久盛

神奈川県立がんセンターには通算30年間お世話になりました。進行した婦人科腫瘍が多く、ここで何とかせねばと使命感をもって診療に努めてまいりました。おかげさまで分厚い医師人生を過ごすことができ満足しております。今後は予防医学に目を向け、これまでの経験を生かしてまいりたいと思っております。

#### ●乳腺内分泌外科（内分泌）部長 岩崎 博幸

8年間勤務、診療は2名体制で計923件の手術を無事行うことができました。皆様のご協力に感謝します。会議を含めた管理業務は充分できませんでしたが、日本内分泌外科学会を主催するなど、学術的な貢献を行いました。英語論文は筆頭10編、共著24編でした。今後は臨床研究所の非常勤として、論文投稿と研究費取得に努力する所存です。

看護局  
より

## 血液内科 患者交流会

7W 病棟

2023年1月22日、3年ぶりに血液内科患者交流会を開催しました。オンラインで医師の講演や、医療スタッフも交えて患者さん同士の交流の時間をもちました。参加された方からは「同じ悩みを持つ方の話が聞けて励みになった」、「有意義だった」というお言葉をいただきました。私たちにとっても、皆さんから元気をいただける貴重な機会でした。造血幹細胞移植を受けられる患者さんの交流の場、サポートの機会として、今後も継続していきたいと考えています。



## がんゲノム治療について

がんゲノム診療科部長 廣島 幸彦

「がん遺伝子パネル検査」では、がんに関連する数百種類の遺伝子の変異を調べ、治療効果が期待できる治療薬や臨床試験の情報を患者さんに提供していますが、標準治療の終盤で実施する保険でのがん遺伝子パネル検査には限界があると考えています。

当院では、保険ではカバーできない治療前、治療早期、複数回のがん遺伝子パネル検査の実現を目指し、保険適用外の検査をリーズナブルな価格で患者さんに届ける試みを開始しました。腫瘍組織を使用して523種類のがん関連遺伝子を網羅的に調べる①TSO500と血液を使用して治療に直結しやすい83遺伝子を10日程度で調べる②Guardant360です。適切なタイミングでがん遺伝子パネル検査を受けることによって、一人でも多くの患者さんに適合した治療法が見つかるようお手伝いできればと考えています。

## 第60回日本がん治療学会 最優秀演題賞受賞

消化器外科(胃食道)  
部長

大島 貴



今回受賞いたしましたのは、「SAMIT」という「胃癌の術後補助化学療法の臨床試験」に参加された患者さんの検体から遺伝子を抽出し、バイオマーカー研究を行った成果です。この成果は、Scientific Reports (IF: 4.379) と Gut (IF: 23.059) に掲載されました。がんセンターから世界に向けて発信できるように、より一層の努力をしてみたいです。

## 編集後記



春は出会いと別れの季節、今回は長年当院を牽引し、退職する医師からの「ひとこと」を掲載しました。先達の築いたがんセンターを引継ぐ我々は、さらに発展させるべく病院機能評価、さらに特定機能病院承認を目指しています。承認に値する質の高い医療を提供する体制を整えるため一丸となって取り組んでおります。これからの神奈川県立がんセンターにご期待ください。

副院長 地域連携室長 岸田 健

編集・発行

神奈川県立がんセンター  
〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2

TEL 045-520-2222 (代)  
<https://kcch.kanagawa-pho.jp/>

